



いながき

3月議会活動報告

爽やかに 新議会スタート!

～中原市政、2年目へ～



いとう

28年度の吉川市一般会計当初予算は、前年度比1.6%減の203億27百万円。国民健康保険など5つの特別会計当初予算は、前年度比0.52%減の138億1千8百万円余。総額では1.2%減の341億4,544万6千円(増減率は、27年度3月の骨格予算と6月補正予算合計後との比較)。

中原市長は、「施政方針演説」の中で『市制施行20周年を迎える今年、特別記念イベント事業を展開し、市民相互の一体感と吉川への愛着心を高め、オール吉川での前進による新たな出発の年とする』。さらに、第5次総合振興計画に基づく前期基本計画重点テーマ、「災害から市民の生命と財産を守る」、「子育てしやすいまちをつくる」、「まちの住みよさと魅力を高める」への取り組みや、新庁舎建設事業、中学校建設事業、吉川美南東口周辺地区土地区画整理事業の推進、そして未来に向けた新たな事業にチャレンジする。と表明しました。

【市制20周年記念事業】

20周年記念式典をはじめ37事業を4つのグループに分けて実施。事業費は総額3,292万9千円。

市民と市職員がプロジェクトチームを組織して企画・実施する特別イベント事業では、吉川産米を使ったギネス挑戦や水辺フェスティバル。「なまずの里マラソン」等の冠記念事業。各課実施事業では、市勢要覧の作成や吉川昔話絵本の発行等。また、『なまりん』を使った啓発事業を展開する予定。

【災害から市民の生命（いのち）と財産を守る!】

吉川市総合治水計画の改定。共保・高久雨水ポンプ場の機械・電気設備の更新。木売落しを活用した雨水貯留施設整備へ向け都市計画協議を進める等、吉川駅周辺の浸水被害軽減対策を進める。また、須賀地区へは大型ポンプ設置を県と協議。

災害時の防災拠点となる新庁舎は、平成28年度中の着工へ向けて取り組む。

【子育てしやすいまちをつくる】

子育ての負担軽減の為、新たに産前・産後の母親に家事援助ヘルパーを派遣する産前・産後ヘルスサービスを開始。また、保育所の待機児童ゼロを目指した施設整備(美南イオン内・小規模保育室)の促進。学童保育室では、美南学童保育室を1クラス増設するとともに、学校用地外で新築工事を実施。

【まちの住みよさと魅力を高める】

吉川美南東口周辺地区土地区画整理事業は、「笑顔と緑あふれるみんなのまち」をコンセプトに土地利用計画を見直し。市街化区域編入へ向け、関係機関との調整へ。

「公園再生プロジェクト」を立ち上げ、公園ごとに遊具(健康)や修景施設の見直しを行う。利用者の変化に対応し、特色ある公園づくりをめざす。

(いながき記)

いながき・いとうの
3月議会報告 どなたでも

場所 おあしすセミナールーム
日時 4月9日(土)
時間 午前10時～午前12時

いながき茂行 栄町782番地1C-1101 TEL&FAX 983-1628
Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com
いとう 正勝 きよみ野2-8-2 TEL&FAX 983-1117
Eメール itoh.m-y.runesansu@nifty.com

*これまでの議会活動報告は、いながき茂行公式ホームページでご覧いただけます。ブログは毎週土曜日更新 <http://www.inagaki-s.com>

再要望

市は適切な対応を！ スーパージョ「マルサン」問題 いながき茂行

「マルサン」の出店から一年半が経ちます。この間、周辺住民は早朝から深夜まで、騒音・振動等の被害を受けています。

とりわけ、店舗と倉庫を結ぶ水路上の『橋』は騒音被害の元凶となっており、道路法の誤った解釈でこの『占用許可』を認められた市の責任は大きいと言わざるを得ません。

高齢者も多く、病人を抱えた家庭もある住宅地区です。

これまでの生活環境が壊され、精神的にも肉体的にも厳しい中で生活を余儀なくされています。住民の忍耐は限界に達しています。

抜本的・具体的な改善を図る為、一般質問で、市の適切な対応を再度求めました。

占用許可の取消。 勧告・命令は？

本来であれば、『占用許可』を取消し、「マルサン」に『橋』の撤

去を求め、また市環境保全条例に違反し続けている、『騒音被害』について、改善の勧告・命令を出すべきです。

しかし、市はそれをやるうとしません。

『占用許可』を下す際、構造等について指導をしたことや現に使用している状況を考えられているようです。マルサン側からすれば、市の言うとおりに作ったのに、『今さら』ということでは。

7回の騒音測定で、いずれも基準値を超えていることについても、『これまで、市の指導に従い騒音の軽減に取り組んでいることから、引き続き指導していきたい。』とこれまでと同じ答弁を繰り返しました。

道路法24条での 許可はムリ

今後の対応の中で、都市建設部長は、『事業者より道路法24条の申し出があり、内容を精査している。』と答弁。

道路法24条は、道路管理者以外の者の行う工事（請願工事）についての規定ですが、これを根拠に『橋』を通路として使

えるようにするというのは、無理ではないでしょうか。

国土交通省や近隣市の道路担当者とも話合っていました。難しいと思います。

住民と事業者との 話合いの場を！

難しい状況の中で、市がやるべきことは、『マルサン』に対し、期限を区切り、住民との話合いで妥協点を見出すよう求め、調整することではないか』と提案。

中原市長は、『周辺住民の苦しみは受け止めており、市の果たす役割も理解している。一方の側を否定せず、より良い状況になる様、落としどころを探っていく。住民と事業者が話し合える場を作っていきたい』との考えを表明しました。

生活環境を守るのは、 市・事業者の責任

『早朝や深夜ぐらいは、静かに寝かせてほしい。』という住民のさやかな願いを、かなえられないことを申し訳なく思う。市も事業者も、もつと生身の人間がここで生活していることを考えていただきたい。

3月議会は、2月25日～3月18日まで開催。59議案を審議し、全議案を可決。内容は条例等18件、人事案件23、補正予算7件、当初予算7件、その他4件。

議案審議

条例の一部改正は、在宅重度心身障害者手当支給・指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める・市職員の給与に関する・議会の議員の報酬及び費用弁償等に関する条例等。新たに制定されたのは、いじめ問題対策連絡協議会等です。

委員会審査

総務水道委員会(伊藤)・文教福祉委員会(稲垣)では、それぞれ委員長として、補正予算・当初予算及び条例担当方を審査。

補正予算では、庁舎建設基金に5億円を積立。中曽根小のプール改修は、27年度入札不調の為、28年度に改めて実施。

また、地方創生加速化交付金を使った観光振興事業に6千万円を計上。2月に申請したが交付決定されなかった為、事業の一部を市の予算で実施する予定。

一般質問

●①スーパージョ「マルサン」問題に、市は適切な対応を②「子宮がん検診」と「予防ワクチン接種」について③病児・病後児保育について(稲垣)

●①「価値ある未来へ」今なすべきこと②「総合」的視点と連携・関係づくり③市民意識と投票率向上④「2025年問題」を前面に⑤「人材」の育成と活用(伊藤)

新庁舎は見直して 9億2千万の縮減

いとう 正勝

新庁舎は市長キャラバンなどの市民意向も踏まえ、全面的に見直し。建設場所はおあしす隣接地とすることを先に再確認。

2月15日。設計見直しと事業費の見積もりを議会に説明。ポイントは▽ボックス型で鉄骨3階建て。コンパクトにし面積は10%の縮小。▽防災の拠点。免震ではなく基礎や柱を強固にする耐震構造を採用。この結果▽事業費総額は38億9千万円に。

免震から耐震構造にすることで5億3千万円の縮減などこれまでより全体で9億2千万円余の縮減になっています。

この日提示された設計案は入口が北側と西側（おあしす側）の2案。「市民に開かれ共に歩む」のコンセプトを徹底するよう強調し基本設計に移ることを了承しました。

30年春の竣工目指し 年内には着工へ

今後のスケジュールは4月初旬メドに基本設計案を固め、議員への説明、了解を得て実施設計へ。

7月中には入札公告。8月業者選定。出来れば9月中の契約を目指したい考え。契約業者や事業費については今後市議会の議決が必要です。

市民改革クラブ（いながき、いとう）では議場や会議室などは市民と共有、思い切った開放をと一貫して求めてきました。新たに結集した9人の会派グループも同じ歩調です。

レイアウトなどは実施設計の段階での変更の余地があり、仕上げに向けて今後とも目配り注文をしていきます。

市民の皆様とともに21世紀の新庁舎を創り上げる決意で臨みます。

おあしすの改修 活用の検討も

新庁舎建設の見直し作業と並行し、市長はおあしすを改修。一層の有効活用をはかれるように検討するとの意向を表明。内容は詰まっていないものの、レイアウトや照明、音響施設の整備、新庁舎への通路などもテーマになりそう。

現庁舎の跡地についてはこれまでの売却方針を見直したい、との発言もありました。いづれも庁内での協議や検討はこれからですが議会でも今後議論し、悔いを残さないように取り組みます。

中央公民館は今年 音響施設を整備

音楽団体などが強く要望している音響施設の整備。

今年度予算に2千5百万円を計上。中央公民館ホールは改良、整備の工事は4月中旬にも入札の準備。秋の市民文化祭には間に合うように進めるといふことです。

工期は夏場の3ヶ月程度を予定とのこと。



投票率

吉川の「総合戦略」の軸に投票率アップを掲げては。と提案。この夏から投票権は18歳以上に。投票所についても誰もが自由に投票できる共通投票所（駅前等）の設置もできるようにします。

吉川では各種選挙で投票率が低下の傾向。先の市議選は42.9%です。20代は21%。30代29%。40代31%と低く、一方で50代51%。60代は58%70代は66%でした。

今回策定された吉川の総合戦略の目標は「子どもの笑顔」と「幸せの実感」。その具現化の指標のひとつに投票率全国一を掲げ、60%以上の参政権の行使をめざしてはと提起しました。

市長は投票率は様々な要因があり簡単ではないとの感想をもらいましたが、庁舎や新中学校建設の問題。おいしい給食、快適トイレ、いじめ解消。防災や子育て。健康長寿等の各施策も投票率向上を念頭に▽総合的に展開する。▽国、県との連動。▽近隣自治体や民間との連携。▽広範な住民の参画等相互の関係づくりを横軸に知恵を集めて取り組んではと繰り返し述べています。

飛躍的に投票率が向上すれば吉川の知名度もあがり、視察の訪問客も大幅増に。お金をかけず「一攫千金」。オール吉川でその気運を盛りあげたいとの考えです。如何でしょうか。

いとう

消防の管理運営は適切か ～救急車暴行事件のケジメ～



消防議会

3月29日の吉川・松伏消防組合議会。再選後も吉川選出の5人の組合議会議員を継続することに。今回は3.11の大災害から5年の節目。吉川市議会での議案質疑とも関連して、消防体制や車両、通信、備蓄など資機材の見直し、更新など5年間の整備強化の内容を中心に総括的に質問。この内容については紙面の都合もあり、別途まとめて報告をと考えています。

救急車暴行事件

この事件については2年間にわたって追及。酔った男が駆け付けた消防の救急救命士を「おそい」とどなり、殴って2週間のけがを負わせた事件。組織として警察に被害届けを出しながら、数日後に被害届けを内々で取り下げ、示談へ。その経過は組織内でも隠され、いびつな空気が漂ったままヤミの中に消えようとしていました。

去年3月。中原新市長・新管理者の登場で、「警察から被害届けを取り下げる」よう指示したのは前管理者の当時の市長であることが明らかになったとの調査報告が議会の場でなされました。新管理者の迅速な行動に称賛のメールを送るとともに、機会を見て人事刷新などけじめをつけて出直しをはかるよう求めました。組織を挙げての隠ぺい工作です。▽責任を自覚し、空気を一新する必要があること。▽事件を再検証し、今後の反省材料や教訓にすること。これが市民社会の常識ではないかとの立場で臨んできました。

今回、4月の定期異動。現場のトップである消防長人事はそのまま。組織内ではこの間、事件については究明どころか関係の報告も一切行われていません。管理や運営に問題はないのか。不適切ではないかとの問いかけに、中原管理者は「取り下げは前管理者の指示にもとづくもので、組織の指示、命令系統はきちんと維持され問題はない。」との見解を示すとともに全責任は管理者である私にあり、二度とこのようなことのないよう公平、透明な組織、管理・運営につとめるとの考えを繰り返しました。

ケジメとはなにか

そこには陰湿な隠ぺい工作の事実や組織内の混乱。公の消防組織のあるべき姿やケジメについての認識は薄く、首をかしばざるを得ない判断との思いで、きわめて残念に思いました。「一事が万事」です。これでは「臭(くさい)ものにふた」「浮石沈木」。石が流れて木が沈みます。この事件の扱い。判断や対応はどうあるべきなのか。「主権者教育」のテーマにもなると思います。関係者や市民の声も是非聞かせていただきたいと考えます。

この他、消防議会では28年度の組合予算についても数項目の質問。戸田市では女性を中心に広報専門の機能別消防団があり、その活動が全国表彰されたことも紹介。吉川でも広報専門や昼間の消防団など柔軟な取り組みを検討してはと提起しました。吉川と松伏の消防団員はあわせて408人。このうち28人が女性です。(報告 いう)

編集後記

8年間、伊藤さんと一緒にやってきた「市民改革クラブ」を解散し、新会派「市民の会・無所属」の結成に参加しました。
 新人女性議員4人を含む9人の最大会派となりました。
 20代から70代まで、経験もバックグラウンドも異なりますが、市民の目線・市民の思いを大切にしたい開かれた議会・市政の実現を目指し頑張るつもりです。これからもよろしくお願ひ致します。
 女性議員たちの行動力には目を見張ります。議案や一般質問について、積極的に地域や市役所内でヒヤリング・調査した上で、質問し、意見を言っています。
 病児・病後児保育や学童保育、美南地区のまちづくり等、同世代や地域の関心事を取り上げていきます。今後の成長が楽しみです。
 議会の雰囲気も執行側の対応も変わりました。その最たるものは、「救命士殴打事件」です。
 これまで、市職員の関与はないと言ってきましたが、今議会で齋藤議員の質問の中で、被害届の取下げ・隠ぺい工作」に關与した方々の名前が出てきました。
 『元議長』『元部長』等ですが、疑惑はさらに深まりました。
 いながきのH・Pブログ参照
 いながき